看護小規模多機能型居宅介護
ケアホーム希望

希望（のぞみ）ニュース

Vol.115　令和5年4月号

（株）つつじヶ丘在宅総合センター
〒182-0006
調布市西つつじヶ丘2-19-6
第三コーポ横田 1F
☎ 03-5315-5722

4月

いつまでたっても親は親！頑張った娘に感謝

Tさん 92歳 女性 要介護５

Tさんとは 私が 26年前に訪問看護を始めた頃に 夫の介護で訪問して以来の付き合いになる。

Tさんの 夫の看護で訪問すると「じゃ私は行きますので あとはよろしくお願いします」と、80歳まで 週3日 浜松町まで通い、働いていた。夫が亡くなり 一人暮らしとなるが、84歳の頃より持病の腰痛が悪化し、ベッドから 起きれなくなることが 度々あり、入院することもあった。要介護状態となり、長女と次女が 交代で介護をしてくれていたが、5年前に次女が他界し、主な介護は長女が担うことになった。

Tさんは「私も夫のように最期まで家で暮らしたい…」が口癖であった。80歳まで健康で働いていたため、年を老いていくことが どういうことなのか わからなかったと…。転倒し 圧迫骨折をして手術をすると 寝たきりになったり、失禁したりすることが 受け入れられず うつ状態にまでなったため令和2年2月より 看多機「ケアホーム希望」の 利用が開始となった。利用当初は、胃ろうや人工肛門造設の利用者、在宅酸素等の医療ニーズの高い利用者が多く「大変な人達がここにはたくさんいるのね」と、自分だけが大変な状況ではないことを理解する。「通い」のサービスを中心に「泊まり」や自宅への訪問介護や看護、訪問診療をはじめ、サービスを調整し臨機応変にサービスを組み合わせて対応してきた。それでも長女の介護協力は必要不可欠であった。長女も家庭と仕事があり、介護負担は大きかった。気持ちは父親と同じように最期まで看多機のサービスを使いながら本人の望む在宅生活を続けられよう介護を頑張ってきたが、長女も年齢的に体力の限界と病気がみつかり治療しなければならない状況になってしまい、特別養護老人ホームへの入所申し込みをした。あっという間に入所可能との連絡があり、本人、家族、私たちはビックリした。本人は「いつも弱音など言わない娘が今回だけは〝つらい〟と言ってきたので、私が入所さえすれば娘の〝つらさ〟もなくなるので仕方ない…」と、口では納得するも、不安な様子も伺えた。

Ｔさんにケアホーム希望の従業員たちから卒業アルバムを作り、利用者さん達との送別会も行った。Ｔさんも皆の前で「皆さんに良くしてもらったことに感謝していること、入所しても遊びに来てほしい」等としっかり立って挨拶をしながら涙した。

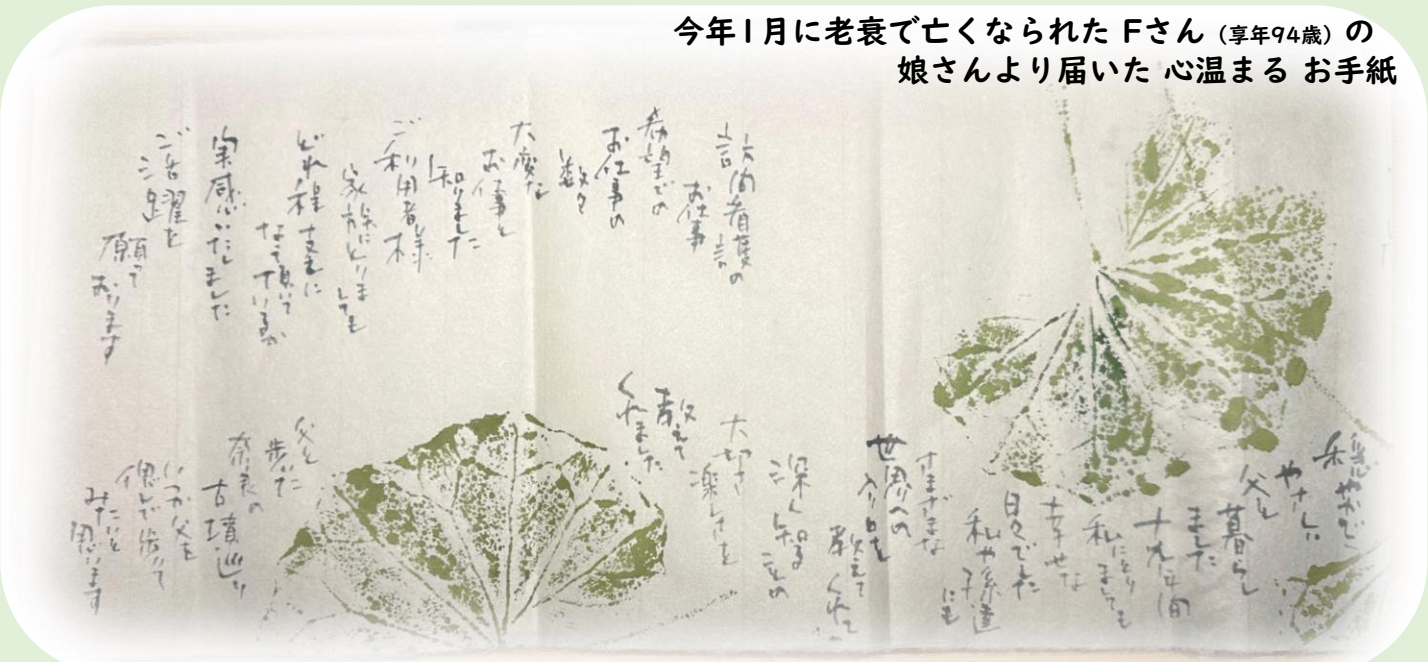
介護保険制度は利用者本位のサービスを理念にしているが、本人に相談することなく家族都合で施設入所を決めてしまうことも多々ある。また、入院すると医師からこの状態では家族が介護できないから施設を探したほうがいいと言われてしまうことも多い。

今回Ｔさんの特養入所にあたり、娘はこれからのこと、今後の生活のことについて本人ときちんと話し合い、本人も納得したうえで入所を決めた。本人が納得し入所できたことは良かったと思う反面、最期までケアホーム希望にいられなかったことに淋しく思う。

Ｔさん「これからも がんばれ！」と応援したい。

そして、娘さんには「これまで 本当にお疲れ様！」と言いたい。

金沢　二美枝

ケアホーム希望 桜 大前線！

今年1月に老衰で亡くなられた Fさん（享年94歳）の
娘さんより届いた 心温まる お手紙